

光免疫療法が実施できる近畿地方5施設のうちの1つとして 本学附属病院に光免疫療法センターを設置

【本件のポイント】

- 本学附属病院（枚方市）で光免疫療法を実施
- 毎週水曜午前に専門外来を設置し、診療・手術を開始
- 2022年4月設置「附属光免疫医学研究所」との連携を目指す

学校法人関西医科大学（大阪府枚方市 理事長・山下敏夫、学長・友田幸一）附属病院（同市 病院長・松田公志）は、2020年11月に保険収載されたがん光免疫療法を実施する専門組織「関西医科大学附属病院光免疫療法センター（以下「光免疫療法センター」）を、4月1日（木）付で設置しました。これは、アメリカ国立衛生研究所（以下「NIH」）主任研究員・小林久隆氏（2022年4月開設「関西医科大学附属光免疫医学研究所（以下「附属光免疫医学研究所」）」所長予定者）が開発した全く新しいがん治療戦略「光免疫療法」を実施する組織で、毎週水曜午前に専門外来を開設し、光免疫療法の適用判断や治療の施行、予後の管理などを行います。

光免疫療法とは、手術療法・化学療法・放射線療法・免疫療法に続く“第5のがん治療法”として注目を集める治療法で、がん細胞だけに吸着する薬剤を投与した後、正常なヒト組織にはほぼ害を与えない近赤外光を照射することでがん細胞を破壊する画期的な治療法です。手術などの方法では治療できない難治性再発頭頸部がんが保険適用となっていて、頭頸部イルミノックス治療とも呼ばれています。

本件光免疫療法センターの設置により本学は、光免疫療法に関する症例データを収集し、2022年4月に予定している「附属光免疫医学研究所」における研究活動で活用することで、光免疫療法のさらなる応用・適用拡大を目指して診療・研究を進める考えです。

■ 関西医科大学附属病院光免疫療法センター概要

センター長	岩井 大（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座教授）
設置場所	関西医科大学附属病院（枚方市新町2-3-1）3F
診療日	毎週水曜午前
主な活動	難治性再発頭頸部がんに対する光免疫療法の実施 術式適応判断、薬剤投与・手術の実施、術後管理、症例収集

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（岡田・畑森）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

別添資料

<本リリースの背景>

現在、がんに対する治療法としてはがん細胞を切り取って治す“手術療法”、がん細胞を攻撃する薬剤を用いる“化学療法”、放射線を照射してがん細胞を攻撃する“放射線療法”、免疫機能を強化したり仕組みを変化させてがん細胞を攻撃する“免疫療法”の4つが主流です。しかし、どの治療法においても正常な細胞を攻撃して破壊するリスクがつきまとい、がん患者さんの治療では吐き気や嘔吐、脱毛、味覚障害など、様々な副作用を生じるのが現状です。しかし、そうしたがん治療の問題点を一気にクリアする、正常な細胞にはほとんど影響を与えずにがん細胞だけを選択的に破壊する全く新しいがん治療戦略が登場しました。それが、光免疫療法です。

アメリカ国立衛生研究所主任研究員・小林久隆氏が開発したこの手法は、がん細胞に多く吸着する薬剤を投与し、人体にほとんど影響を与えない近赤外光を照射すれば、がん細胞に取り付いた薬剤が化学変化を起こして物理的にがん細胞を破壊する、という仕組みでがんを治療します。日本でも2020年9月に薬剤・照射機器の承認が降り、同年11月には難治性再発頭頸部がんに対する保険適用が決定。患者さんの負担は総費用の1~3割（保険による）です。本学附属病院以外における国内の光免疫療法実施施設については、以下の楽天メディカル社リリースをご参照ください。

「楽天メディカルジャパン、日本におけるアキラルックス®点滴静注 250 mgおよび BioBlade®レーザシステムの販売開始、約20施設から順次拡大」

<https://rakuten-med.com/jp/news/press-releases/2021/02/08/7738/>

<本リリースの意義>

これまで、強い副作用や長い治療期間、低下するQOLなどの問題からがん治療に対してはネガティブなイメージが強く印象付いています。しかし、光免疫療法はそうしたがん治療を取り巻く現状を一変させる、大きな可能性を秘めた治療法として高い注目を集めています。

今回の本件光免疫療法センターの設置は、光免疫療法の提供という面だけでなく、症例データの収集も可能となり、難治性再発頭頸部がん以外のがんにも保険適用できるよう、安全性の向上や術式の改善など、様々な面で研究が進むことが期待されます。また、2022年4月には「関西医科大学附属光免疫医学研究所」を設置すること、及びその所長として小林氏が着任する予定であり、研究所設置の暁には臨床とアカデミアが車の両輪となってさらに光免疫療法の研究が加速するものと思われま

す。今後、本学はこの附属病院光免疫療法センターと、附属光免疫医学研究所の連携・協働によって、一日も早く多くのがん患者さんに光免疫療法を提供できるよう努力していきます。

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（岡田・畑森）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

リリース先：大阪科学・大学記者クラブ、文部科学記者会、
科学記者会、厚生労働記者会、厚生日比谷クラブ

PRESS RELEASE

2021年4月20日

No.000161



<本件光免疫療法センターに関するお問合せ先>

学校法人関西医科大学

附属病院光免疫療法センター センター長

岩井 大（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座教授）

同センター 担当医

藤澤 琢郎（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座講師）

鈴木 健介（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座助教）

大阪府枚方市新町 2-5-1

TEL： 072-804-0101

E-MAIL： fujisawt@hirakata.kmu.ac.jp

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（岡田・畑森）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp